

ルカによる福音書 19章 1～10節

“お金の力からの自由（解放）、上手にお金を使うための自由”

～からの自由、～への自由というシリーズを学んできましたが、今月はヤコブの手紙から離れます。でも、また戻ると思います。

「オープン・ドア・チャペルは国際的な信仰の家族として札幌にいてイエス・キリストの福音を実現することを目的としている教会です」（ODCのウェブサイトから）。その「福音の実現」の一部はお金や物質的な物などの使い方です。

私達は、聖書の中のこの有名な話から多くのことを学びます。

例えば、キリストが来られた目的とミッションについて（ルカ 19章 10節）、失われた人とは、そして救うためとはどのような意味なのでしょう（ルカ 19章 10節、）

それは、神様の愛が、バルテマイのような貧しい人や同時にザアカイのような富める人、更に、全ての人に臨むということを示しています。

私達は、キリストに出会い、その弟子となる時に受ける“自由”について見てきました。

ザアカイがキリストと出会ったことで起こった様々な種類の変化について、ここに数々の素晴らしい教えがあります。

心理学上の変化 ～ 拒絶されている者から選ばれた者へ

社会的な変化 ～ 底辺にいる者から高尚な者へ、そしてその融合へ1

霊的な変化 ～ 罪人からアブラハムの息子へ

私は今日、特に、お金の使い方の方を変えていくことについて焦点を当てていきたいのです。

多分、信仰にとって一番大きな脅威は、他の宗教にではなく、お金を愛し、これを私達の生活に必要な安全、娯楽、力として信頼することです。

私達が深くお金に信頼しこれを愛する時、それが例えキリストや信仰について語り、自分自身を良いクリスチャンであると考えていても、私達は違う神に仕えていることになるのです。

教会生活は、団体生活と区別することが時に難しくなります。特に、私達の教会のように“ユーザーフレンドリー（取り扱い易い）”教会は、“消費者的キリスト教”という考え方に立って運営されるきらいがあります（恐れがあります）。

私達は、本来の到達点を、人々をキリストに導くことではなく、人々が個人的（私的）な目的のために購入し、使用する製品を提供するという、そのような危機に絶えずさらされています。

ザアカイの話は、お金の問題と、神様を信じる人がどのようにそれを使うべきかについて問題提起しています。今日の厳しい経済情勢において、これは非常に関係のあるメッセージです。

ザアカイの話は、神様が私達をお金の力から自由にし、私達が愛と喜びと信仰に富んだ生活を学ぶことができるという聖書の事実の生きる実例として提供されています。

ザアカイは“キリストにある自由”という言葉が意味することのモデルです。

エリコの街は香油と他の物品の重要な交易地でした。それでザアカイはこの地方の取税人の頭でした。

ザアカイが登った木は低い枝が広く張り出している大きさとザアカイが容易に登っていくことができたのです。

この地でイエス様は、過越の祭のためガリラヤからやってきた群衆の間でヒーローのようなお方でした。イエス様はここに住む人々の感覚にショックを与えられたのです。それは、この街のほとんど全ての人々から法外な税金を強取するようにして取り立てている悪名高き罪人、取税人の頭に、御自身をゲストとして招待させることとしたからです。

5節では、“今日 私はあなたの家に泊まることにした。” とあります。

全く知らない人の家に泊まるということは、この時代の文化では考えられないことではありませんでした（今日の世界で“キリストのように生きる”ということは、多分、私達が旅をする時に全くの他人の家へ泊まることを意味するものではないのです。）

キリストはザアカイを群衆の中から選びました。それはまるで、街の大きくて主要な役所の責任者を選ぶようなもので、そしてその役所が不良債権と多額の損失を抱え、政府に税金の補てんを願い出ている、誰もが、その役所は大きすぎて潰せないと思っているというものです。

もし、皆さんの目的が多くの人々の支持を得たいというものであれば、大勢の人の中からわざわざこのような人を選ばないでしょう。ザアカイは、そのような時に皆さんが避けるだろう典型的な人です。

しかしキリストは、大勢の人の中から、他の人を選ぶこともできたのに、彼を選びました。

どうしてでしょう？ 多分それは、たとえどれほど多くの悪事を行なっているとしても、神様の愛は全ての人に伸ばされていることを示すためだったからでしょう。私達が考える最悪な罪も、最大の過ちも、神様の救済する愛に比べれば、まだまだ格段に小さいのです。また、キリストは、人がどんなにお金を持っていたとしても、神様の目から見れば貧しいのだと示されたかったのかもしれませんが。

8 節 “もし私が～を持っていれば”

ギリシャ語の文法では、「彼は持っていることを認めた」となります。ある翻訳では「もし」という部分を省いているものもあります。

9 節 “4 倍”

出エジプト記 22 章 1 節

‘牛とか羊を盗み、これを殺したり、売ったりした場合、牛一頭を牛五頭で、羊 1 匹を羊 4 匹で償わなければならない。

民数記 5 章 5 節

“ついで主はモーセに告げて仰せられた。 6 節 ” イスラエル人に告げよ。男にせよ女にせよ、主に対して不信の罪を犯し、他人に何か一つでも罪を犯し、自分でその罪を認めたときは “ 7 節 ” 自分の犯した罪を告白しなければならない。その者は罪過のために総額を弁償する。また、それにその 5 分の 1 を加えて、当の被害者に支払わなければならない。“

私達は、ザアカイがキリストとお会いする前に、お金についてどう考えていたか、はっきり見てきました。では、その後はどうなったのでしょうか？ ザアカイのその後の行動が良いヒントです。

それは私達が聖書を通して見つけることのできる教えを示しています。それではそれらの主要な 教えについて見ていきましょう。

1 神様の所有であるという原則

レビ記 25 章 23 節

” 土地は、永続的に売ってはならない。なぜなら土地は私のもので、あなた方は私のもとに居留している異国人である。 “

イスラエル人は、この教えを完全かついつも変わらずに実行してきた訳ではないのかもしれませんが。しかしながら、彼らの古代からの法律にはそうあって、彼らもそのことを知っているのです。それは判断基準の原則とお金を使うことに関する神様の意図が、今日においても継続していることを示しています。

私達が持つであろうどんなものも、神様からお借りしていることによるのみ、私達のものになります。何故ならば神様が私達が所有することを許している（神様が能動的にそうするか、又は受動的にそうするかのどちらでも）からです。私達の誰もが持っている物をずっと持ち続けることはできません。この人生で手放さなくても、どのみち次の人生に行く前には手放すのですから。しかも、そうなる前でも、私達はその物に興味を失うことだってあるのですから。

2 神様の豊かさの原則対欠乏

神様は豊かに持っておられます。よって私達は貯蔵することよりも日々神様に信頼するのです。

詩篇 50 章 10 節 ” 森の全ての獣は、私のもの。千の丘の家畜も。 “

マタイによる福音書 6 章 11 節

” わたし達に日ごとの糧をきょうもお与え下さい。 “

マタイによる福音書 6 章 19 節

“自分の宝を地上に蓄えるのはやめなさい。”

3 寛大の原則

ルカによる福音書 6 章 38 節

“与えなさい。そうすれば自分も与えられます。 人々は量りをよくして、押しつけ、揺すりいれ、 あふれるまでにして、懐に入れてくれるでしょう。あなた方は、人を量る量りで、自分も量り返してもらうからです。 “

A 借財を許すことを含める

マタイによる福音書 6 章 12 節

” 私達の負いめをお赦し下さい。私達も私達に負いめのある人を赦しました。 “

レビ記 25 章 20 節

” あなた方が、「もし、種を蒔かず、また収穫も集めないのなら、私達は 7 年目に何を食べれ

ばよいのか」と言うなら、 “

21 節

” 私は 6 年目に、あなた方のため、わたしの祝福を命じ、3 年間のための収穫を生じさせる。“

22 節

” あなた方が 8 年目に種を蒔く時にも、古い収穫をなお食べていよう。9 年目まで、その収穫があるまで、なお古いものを食べることができる。“

B 恵によって生きるモデル (例)

マタイ 20 章 10 節

“ 最初の者たちがもらいに来て、もっと多くもらえるだろうと思ったが、彼らもやはり一人 1 デナリずつであった。”

4 社会責任の原則対それぞれの必要の個人による充足

ガラテヤ書 6 章 2 節

“ 互いの重荷を負い合い、そのようにしてキリストの立法を全うしなさい。”

ヨハネ第一の手紙 3 章 17 節

“ 世の富を持ちながら、兄弟が困っているのを見ても、あわれみの心を閉ざすような者にどうして神の愛がとどまっているでしょう。”

テサロニケ人への手紙第二 3 章 10 節

“ 私達は、あなた方のところにいた時にも、働きたくない者は食べるなど命じました。”

今日の「良いニュース (知らせ)」: 神様の導きと支えを通して、お金の力のダメージからの自由があり、人生を導くようなやり方でお金を使う自由があるということです。

全能の主、昔ザアカイに与えてくださった自由をわたしたちにもどうか与えてください。お金、物質的な物、持っている全部を含めて、あなたに教えられている通りに扱うことができるように助けてください。イエスキリストの御名によって祈ります。アーメン。

参考

Robertson, A. T. (1960). Robertson's Word Pictures of the New Testament. Rev. ed. Broadman Press. Retrieved July 1, 2018 from <http://www.biblestudytools.com/commentaries/robertsons-word-pictures/luke/luke-19-8.html>

Tatsumi, K., Toyama, K., and Kimu, S. (July 13, 2018). Med school in bribery scandal apparently created lists of backdoor admissions. The Mainichi. Retrieved July 14, 2018 from <https://mainichi.jp/english/articles/20180713/p2a/00m/0na/012000c>

Warren, R. (June 19, 2013). “Restate Your Church Vision Every 30 Days.” Pastors.com. Retrieved July 13, 2018 from <https://pastors.com/the-nehemiah-principle-vision/>